

第35回 更なる盛り上がりを見せた 京都の冬恒例の演劇の祭典! Kyoto演劇フェスティバル

2014年 2月8日(土)~16(日)



河原町通が演フェスに向けての祝祭一色に染まります。

Kyoto 演劇フェスティバル(演フェス)は、京都府内の劇団・人形劇団が一堂に集う唯一の機会として、また、府民の皆様が演劇文化に触れる機会を提供する事を目的とした地域密着型の演劇祭として昭和54年より休むことなく開催し続けており、「演劇一色に染まる2月の文化芸術会館」と評され、今回で35回目を迎えました。

また、全国に先がけて府民参加型の合同創作劇や朗読劇、短編連続上演などの非常に多彩な特別プログラムを行うなど、「子どもから大人まで楽しめるフェスティバル」として地域に定着し、公立ホールが企画・運営を行う演劇祭として全国有数の

会館正面では劇団入魂!の「のぼり旗」が皆様をお迎え。



開催回数を誇りつつ注目を集めています。

特に今回は関西全域からの参加を募る(公募公演プログラム)以外にも、「子どもから大人まで楽しめる1日」を目指した特別企画として〈演劇クロス世代〉と銘打ち、世代の垣根を越えた「出会いと交流」の1日を設けるなど、京都を中心により広い地域での演劇文化の普及・発展を目的に開催いたしました。



ホールロビーにも様々な上演スペースが出現します。



参加団体と協力し、運営を行います。(ミーティング風景)

第35回Kyoto演劇フェスティバル開催スケジュール

2/8(土)	2/9(日)	2/11(祝)	2/15(土)	2/16(日)
公募公演 児童青少年部門		公募公演 一般部門		特別企画
和室 集団 「鞍馬口」 (京都市)	和室 バベット てなもんや (京都市)	和室 グループ 空清 (京都市)	和室 芝居屋さん プロデュース (大阪府)	和室 まぶいの会 ・京都 (京都市)
和室 演遊舎 (兵庫県)	ホール まゆとも GTS (京都市)	和室 春楡一座 (京都市)	和室 人形劇団 博士の仲間たち (大阪府)	ホール 京都放送劇団 (京都市)
ホール みかんの木 文庫 (福知山)	ホール 児童劇団 やまびこ座 (福知山)	ホール 京都女子大学演劇部 劇団 S.F.P. (京都市)	ホール ミュージカル劇団 ケセラセラ (京都市)	ホール 立命館中学校 演劇部 (京都市)
ホール 久我の杜小学校 演劇部 (京都市)	ホール やわた人形劇 連絡会 (八幡市)	ホール 劇団 あいAI 京都 (京都市)	ホール ドキドキ ぼーいず (京都市)	ホール 嗜血劇場 (京都市)
ホール 京都西陣 創造集団アニメ (京都市)	ホール チムチム サービス (大阪府)	ホール コロボックル 企画 (京都市)	ホール 劇団 京すずめ (京都市)	ホール 鴨沂高等学校 演劇部 (京都市)
ホール 宇治っ子朗読劇団 ★ Genji (宇治市)	ホール ぼっぶ・こーん (京都市)	ホール 劇団 Tiny Plants (京都市)		ホール グランド フィナーレ

公募公演 児童青少年部門

[2月8日(土)・9日(日)]

京都府内で継続的に活動が続ける劇団・人形劇団を中心に、前回より関西全域の劇団・人形劇団までを広く参加対象にした、Kyoto 演劇フェスティバルの屋台骨を支える中心プログラムです。

児童青少年の鑑賞ならびに児童青少年の出演を対象とした演劇・人形劇等の上演が行われるほか、休憩中にはロビープログラムが行われるなど、充実



子どもたちに向けて発信するだけでなく、子どもたちが主役となって大人と一緒に舞台を駆け巡る場面も。(やまびこ座)



京都府外からの劇団の参加もあり、前回以上の盛り上がりを見せました。(チムチムサービス)

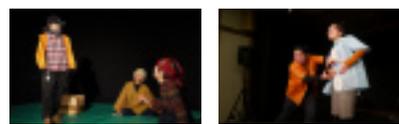
したラインアップを誇ります。

今回は京都市内からの参加以外に、京都府下からは福知山市、大阪府と兵庫県から2団体の参加がありました。

その内容につきましては、高齢者による団体から地域で活動を行っている児童劇団や小学校演劇部まで非常に幅広い年代層による参加で、作品についても完全オリジナルから名作まで非常にバラエティ豊かな舞台上、和室・ホール共に子どもから大人まで好評を博しておりました。

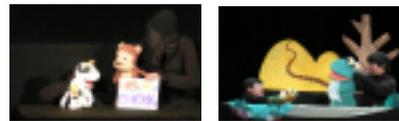
また、上記プログラム以外にもアフタートークやお絵かきコーナーなど、多彩なプログラム内容で、「まるごと1日楽しめる演劇祭」として大盛況のうち

児童青少年部門上演団体



集団「鞍馬口」

演遊舎



バベットてなもんや

みかんの木文庫



久我の杜小学校演劇部

京都西陣創造集団アノニム



宇治っ子朗読劇団★Genji

まゆともGTS



児童劇団やまびこ座

やわた人形劇連絡会



チムチムサービス

ぼっふ・こーん

に児童青少年部門の幕を下ろすことができました。

公募公演 一般部門

[2月11日(祝)・15日(土)]



今回の一般部門は学生劇団(大学)の参加など、バラエティ豊かなラインアップとなりました。(コロボックル企画)

今回は16団体の申込があり、プログラム全体のバランスや活動上での勢いなどを考慮し選考した結果、11団体で一般部門の幕は開きました。

その内容につきましてはストレートプレイやミュージカル、朗読劇など、非常にバラエティ豊かなラインアップで開催されました。

また、前回より関西全域の劇団を対

象にするだけでなく、学生劇団にも門戸を広げたことにより、今回は学生劇団の参加が顕著に見られ、その内容につきましても、未来の演劇界を担うに相応しい熱意のある舞台上、今後の活躍が期待できる内容でした。

なお、今回より「観客賞」(ホール公演のみ)や「幕間トーク」などが新たに実施され、観客と劇団間の交流が効果的に行われました。

そして、各公演日の最終公演終了後に行われました交流会においても、大人?が学生劇団を讃えるなど、今後に向けての展開や展望に期待の持てる内容で、盛況のうちに幕を下ろすことができました。



中高年が演じる中高年に向けた人形劇など、幅広い年齢層の参加も特徴的でした。(博士の仲間たち)

一般部門上演団体



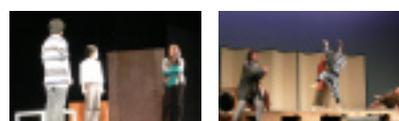
グループ空清

春楡一座



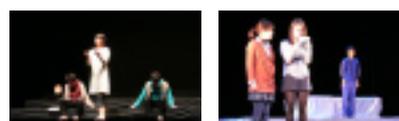
芝居屋さんプロデュース

人形劇団 博士の仲間たち



京都女子大学演劇部 劇団S.F.P.

劇団あいAI京都



コロボックル企画

劇団Tiny Plants



ミュージカル劇団 ケセラセラ

ドキドキぼーいず



劇団 京すずめ

特別企画〈演劇クロス世代〉

[2月16日(日)]

「少年少女から青年・大人・熟年(?)までまじわって(クロス!)つながって今日は1日“だんらん劇場”!」というキャッチコピーのとおり、幅広い年代の観客層に楽しんでいただけるよう、中高演劇部の優秀作品や学生演劇の推薦作品、さらに一般部門からの選りすぐり作品が集結し、演フェスの最終日を盛り上げました。

その内容につきましては、三線と共



グランドフィナーレでは演フェス参加全団体が舞台上に集い、観客賞の表彰など、第35回の演フェスを締めくくりました。

交流会・合評会

劇団同士の交流を行い、今後の活動を活性化させることを目的に各部門ごとに実施しました(児童青少年部門は別日程/一般部門は各公演日の終了後)。

特筆すべきは児童青少年部門の合評&交流会で、12劇団中11劇団61名の

その他の企画

今回の演フェスは、「相互交流プログラム」と銘打ち、従来からの課題でありました「交流」をより明確にすべく、様々な取り組みを行いました。

一つ目がお互いの劇団の作品を相互に鑑賞しあい、講評(感想)を行うという制度で、各参加劇団からは非常に好意的に取り組んでもらえました。様々

に語られる戦争悲話にはじまり、ラジオドラマ収録風景をそのまま持ち込んだような放送劇、中学・高校・大学生による完全オリジナルの創作舞台など、多彩な内容で上演され、企画意図のとおり、幅広い年代の来場により賑わいのある1日となりました。

また、特別企画終了後に実施されましたグランドフィナーレにつきましては、公募公演の全参加劇団が舞台上に集合し、第35回の演フェスを締めくくると共に、第1回観客賞の発表・表彰が行われました(ミュージカル劇団ケセラセラが受賞)。そして今回顕著な活躍を見せた劇団に対して急遽実行委員長特別賞が設けられ、今後の活躍を期待して賞が贈られました(ドキドキぼーいずが受賞)。

前回より募集要項などを見直すと共に、「出会いと交流」をより積極的に企画化していきました第35回の演フェスは、前回以上の盛り上がりを見せ、次回第36回への期待と共に無事に全ての公演プログラムを終了いたしました。

参加により、賑々しく行われました。

内容につきましては、交流を深めるためのインプロゲームをはじめ、ダイジェスト映像で振り返る「バックトゥザ演フェスショー」、キーワードトーク「劇団対抗パネルでポン!!」など、時には笑いが飛び出す多彩な内容で、子どもから大人までが一緒になって第35回を振り返ると共に、各劇団が次の創作活動に向けての第一歩となったと想います。

な劇団が多彩な内容で上演を行う演フェスの特徴を最大限に生かした取り組みで、劇団からは「非常に刺激になった」「勉強になった」だけでなく、大学生の公演を観た小学生の劇団員が将来その劇団に入りたいと、感動して泣き出す一面があったりと、初めての試みではありましたが、非常に効果のあったプログラムでした。

二つ目が観客と劇団の交流を目的とした「アフタートーク」「幕間トー

特別企画 上演団体



まぶいの会・京都



京都放送劇団



立命館中学校 演劇部



嗜血劇場



京都市立鴨沂高等学校 演劇部



その日の公演をスライドショー形式で振り返り、語り合い・譲え合う一般部門交流会



様々な企画により一体感のある時間となりました。(児童青少年部門 合評&交流会)

ク」で、終演後に感想や質問を交わし合い、終演後の時間を有効に活用したプログラムでした。



終演後のひととき(和室公演)

第35回Kyoto演劇フェスティバル開催結果について

〈開催期間〉2014年2月8日(土)～16日(日)

〈会場〉京都府立文化芸術会館 ホール・3階和室

〈参加団体数・人数〉32団体・420名

〈運営サポートスタッフ数〉155名(延べ人数)

〈入場者数〉公募公演:児童青少年部門 3,708名(ロビー・プログラム等含む)

公募公演:一般部門 3,371名(幕間トーク等含む)

特別企画〈演劇クロス世代〉1,627名(幕間トーク等含む)

合計 9,281名

〈実行委員〉

委員長 椋平 淳

(大阪工業大学教授/京都府立文化芸術会館シアターアドバイザー)

委員 岡田 尚丈 (創造集団アノニム)

河瀬 仁誌 (劇団ZTON)

木原アルミ (パーカーズ)

ごまのはえ (ニットキャップシアター)

沢 大洋 (京都学生演劇祭プロデューサー)

田辺 剛 (アトリエ劇研ディレクター)

中田 達幸 (俳優・演出家)

小林 洋介 (人形劇団京芸)

中村さとし (京都児童青少年演劇協会)

森井 有子 ()

中村 昌剛 (京都市人形劇センター)

小谷 常 ()

奥谷 三穂 (京都府 文化環境部 文化芸術振興課 課長)

下田 元美 (京都府立文化芸術会館 館長)

〈ホールスタッフ〉

谷澤 庸行 (指定管理者 創/照明担当)

吉村 昭治 (/舞台担当)

鈴木 英嗣 (/音響担当)

上田 晶人 (/事務局担当)

北村 方人 (/照明担当)

〈運営〉京都府立文化芸術会館

〈主催〉京都府、指定管理者 創[(財)京都文化財団・(株)コングレ共同事業体]

Kyoto演劇フェスティバル実行委員会

〈後援〉京都府教育委員会、京都市教育委員会、京都新聞社、朝日新聞京都総局、毎日新聞社京都支局、読売新聞京都総局、産経新聞社京都総局、日本経済新聞社京都支社、NHK京都放送局、KBS京都、エフエム京都

〈協力〉京都児童青少年演劇協会、京都市人形劇センター、NPO法人劇研、京都府高等学校演劇連盟、京都市中学校教育研究会演劇部会、京都労演

